

岩手中学校における学徒動員の概要

昭和十二年に日中戦争（支那事变）、同十六年、太平洋戦争へと戦争が拡大するにつれて、学園は急速に戦時体制に組み込まれ、やがて三年生以上の学年は、軍需工場へと動員されたのであった。

◆昭和十六年二月 「青少年学徒食糧飼料等増産運動実施要綱」が出される。勤労奉仕は、国策協力の実践的教育となった。

◆昭和十六年六月 石桜報国団が結成される。学
校長を団長とし、総務部、鍛錬部、国防訓練部、文化部、生活部を組織した。

◆昭和十六年十月 岩手中学校報国団が編成される。学校長を報国隊長、教頭を大隊長とし、第一中隊（一年）、第二中隊（二年）、第三中隊（三年）、第四中隊（四年）、第五中隊（五年）で構成された。風俗は戦闘帽に巻脚絆（ゲートル）、そして胸札を着装し、挙手の礼を強要された。

◆昭和十八年五月 「勤労報国隊整備要綱」発表

される。

◆昭和十八年六月 「学徒戦時動員体制確立要綱」決定される。

◆昭和十九年二月 「決戦非常措置要綱」決定。

◆昭和十九年三月 「決戦非常措置要綱」に基づく学徒動員実施要綱」閣議決定。これにより、私達は通年動員となり、三年生以上の授業は完全に停止状態となった。

◆昭和十九年六月二十五日 四年生九十一名、久慈鉱山へ動員。十月三菱重工川崎工場に配置換え。

◆昭和十九年七月十七日 五年生六十三名、日本鑄造鶴見工場へ動員。

◆昭和十九年十月 三年生は久慈鉱山へ動員。十二月日本製鋼横浜製作所に配置換え。

以上が私達をめぐる学徒動員の概要であった。